

東奥日報

2018年(平成30年)6月7日 木曜日 (15)

七戸高生の興味刺激 航空科学館で体験授業

三 沢

七戸高校自然科学系列の3年生42人が6日、フィールドワークの一環として、三沢市の県立三沢航空科学館を訪れ、5種類の授業を受けた。七戸高校独自のプログラムで、同館での授業は初めての試み。大学の模擬授業の体験や、さまざまな実験・実習が、生徒たちの「科学する心」を刺激し



田中教授（奥）の授業で、海洋生物の稚魚をピンセットで分類する七戸高の生徒たち

見方は第3社会面に



東奥日報

た。授業では、八戸工業大学生命環境科学科の田中義幸教授が「海洋生物からのメッセージ〜環境が変われば生き物も変わる」と題し、1時間半、講義した。田中教授は「大学の講義

では、学びたいことを先生からもぎ取り、自ら育てて花を咲かせることが大切」と、高校と大学の学びの違いを説明。海に生息する生物や海藻・海草、それらを取り巻く環境を取り上げ、生物多様性について解説した。

生徒たちは、イワシの稚魚とそのほかの生物が混ざった、鹿児島、愛媛、和歌山の3県沖のちりめんじゃこを使い、分類する実習にも挑戦。愛媛県沖の生き物を分類した竹内更沙さん（18）＝七戸町＝は「同じ日本でも、地域によって生き物の種類や数に差があって驚いた。いろいろな疑問がわいてきて楽しかった。生態学にも興味を引かれました」と話した。

このほか、銅製のメダルを亜鉛と反応させメッキを作る実験や、ミス・ビードル号について学ぶ授業も行った。（加藤景子）

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」